

# 沖縄



6月23日は、沖縄県民にとって忘れることのできない、また、日本人として知っておかなければならない“特別な日”です。

今から73年前（1945年）の6月23日は、沖縄戦（対アメリカ）が日本軍の組織的戦闘の終結した節目として、後に「慰霊の日」として制定されました。しかし、その後も降伏を拒む軍による一般県民を巻き込んだ激しい抵抗が続いたことで、最終的に犠牲者の数は20万人余り（約半数が一般県民や子ども）にのぼり、この戦争が残した傷跡は計り知れない深いものとなりました。

6月23日は、沖縄戦の戦没者の霊を慰（なぐさ）め平和を祈る日として、現在も、沖縄県の条例で『休日』と定められており、糸満市摩文仁（イマンシマブンニ）の平和祈念公園において、県をあげて「沖縄全戦没者追悼式」が行われ、正午に黙祷（モクドウ）をして戦没者の霊を慰め、恒久的な世界平和の祈りが捧げられます。一方で、生命が簡単に奪われてしまう戦禍に巻き込まれたウクライナの状況は、胸が締め付けられる思いです。

今年も、沖縄の返還50年（1972年に返還）を迎え、改めて、6月23日「慰霊の日」は、戦争で犠牲になられた方を想い、平和や命について考える起点（出発）の日として意識してほしいと思います。

### ＜豆知識＞ —第2次世界大戦末期—

1941年12月8日の真珠湾攻撃より『大東亜戦争（太平洋戦争）』が始まる。当初は奇襲攻撃が功を奏して優勢に展開したが、次第に戦況は劣勢に転じ追い込まれた日本は、1945年4月1日、アメリカ軍の沖縄本島上陸を許し、日本国内で唯一の地上戦である『沖縄戦』が激化して行く。日本軍は最終防備ラインとして牛島満司令官率いる第32軍を編成して、激しく戦闘を繰り広げるも、6月18日ごろには本軍防衛線も米軍に突破されたため、牛島司令官は「最後まで敢闘(カンウ)し悠久(ユウキウ)の大義に生くべし(最後まで命をかけて国のために戦え)」と最後の命令を発し、23日未明、摩文仁(マブンニ)の軍司令部壕(ゴウ)において自決した。ここに日本軍による組織的抵抗は最終的に終了したが、米軍は引き続き掃討戦を展開、6月末までに約9000人の日本兵が犠牲となり、8万人ほどの一般婦女子が収容されたという。また、「ひめゆり部隊」をはじめとする学徒隊や、現地応召の防衛隊の多くも南端の洞窟(ドウクツ)や海岸で悲惨な最期を遂げた。米軍が沖縄攻略作戦の終了を宣言したのは7月2日のことである。

この戦争は、沖縄県民4人に1人が犠牲となったといわれ、20万人余りの尊い命と財産や沖縄の文化財、自然がごとく奪われた。

【日本大百科全書(ニッポニカ)の解説より】